

編 集 後 記

本号は「臨床神経学」57巻2号ですが、本誌が完全オープンアクセスジャーナルとなってから、2年余りが経過しました。地方会の抄録以外の掲載論文は全て、IDパスワードの認証無しで閲覧可能となっています。電子化の取り組みはそれ以前から始まり、すでに48巻11号からJ-STAGEへの掲載が始まっております。さらに、本誌の過去の論文の電子化(PDF)が目標となっており、編集委員会で今後検討していく予定です。このモデルとして、日本消化器外科学会雑誌が1973(6巻2号)~2010年(43巻12号)をPDF化し、会員の便宜をはかっていることが挙げられます。

最近、症例報告を掲載する雑誌が減っておりますが、本誌はよくまとめられた症例報告が多く掲載されている貴重な雑誌であり、英文抄録はPubMed/MEDLINEにも掲載されますので、世界の人々に貴重な症例を示すことができます。

本誌は投稿システムもScholarOne使用により完全に電子化されており、編集業務がスムーズに行われております。小生は3つの他学会誌の編集委員長をしてまいりましたが、編集業務、雑誌の印刷までどのようなシステムを使うか、各誌さまざまです。本誌は完全に電子化し印刷物は発行していないため、冊子は手に入りません。他誌では電子化しても冊子も残している学会もありますが、冊子を作成する段階で多くの費用が発生するため、将来は冊子として残すことが困難になってくることが予想されます。

話しはわかりますが、多くの論文の査読をしていて感じるものが2つあります。一つは倫理の問題です。最近、NOAC(DOAC)として新しい抗凝固薬が出てまいりましたが、それらを現在、適応となっていない疾患において使用した場合などには、院内の倫理委員会を通してから行う必要があります。しかし、その手順を踏んでいない論文が時々投稿されてきます。治療に関する症例報告では、その他の分野でも同じようなケースが散見されます。平成27年には「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」も公表されていますので、この問題には真摯に取り組んでいただきたいと思います。もう一つはCOIの問題です。一つの論文で「COIあり」と書かれているのに、新たに投稿された論文で同じ著者が入っているにもかかわらず、「COIなし」と書かれていることがしばしば見受けられます。これは筆頭著者が教室の上司によく聞かないで「COIなし」としてしまったのではないかと推測されます。各教室で若いときからCOIの問題にも注意を払う習慣をつけることが何よりも重要です。この2つの問題は、論文を指導する立場の先生方が目を光らせてご指導いただくことを願っております。

今後も本誌へ質の高い論文を投稿していただくことを希望しております。

(荒木 信夫)

〈編 集 委 員〉

編集委員長 鈴木 則宏 編集副委員長 河村 満
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡
 瀧山 嘉久 坪井 義夫 西野 一三 野村 恭一 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 園生 雅弘 高尾 昌樹

「臨床神経学」	第57巻 第2号	平成29年2月1日発行	
編 集 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		一般社団法人日本神経学会
発 行 者	東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル		高 橋 良 輔
印 刷 所	〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入		中西印刷株式会社

発 行 所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>